

妊娠中の風疹感染について

妊娠中（妊娠5ヶ月までに）に風疹に感染すると、児に先天性風疹症候群が起こる可能性があります。当院では妊娠初期検査で抗体（HI）検査をさせていただいています。

〈免疫が無い人または抗体価が少ない人：検査値が16以下〉

1. 妊娠中には人混みや子供の多いところ、風疹感染者のいる場所を避けるようにしてください。
2. 夫や子供に免疫が無ければ、ワクチンの接種をお勧めします。
（ただし、この際の抗体価の検査やワクチンの接種は、お近くの内科や小児科でお願いします。）
3. 分娩後早期にご本人のワクチン接種をお勧めします。
（分娩後のワクチン接種は入院中にも行えるため、希望される場合はお申し出下さい。）

* ワクチン接種により95%の人に抗体ができますが、10年くらいで抗体価が下がってくる場合があります。

〈抗体価が高い場合：検査値が256以上〉

1. 2週間あけて再検査をし、最近かかったものでないか確認します。値が変動しない場合や罹患した場合に上昇するIgM抗体が低ければ問題ありません。
2. 値が4倍以上変動している場合やIgM抗体が陽性であれば、感染の疑いがあり、児の感染の有無を確認する検査を必要とします。必要に応じて専門医に紹介させていただきます。